

第 15 回 福利・にぎわい検討会議 議事要旨 (案)

1 日時：令和 7 年 10 月 14 日 (火) 19:00～20:40

2 場所：西成区役所 4-6・8 会議室

3 出席者：

(有識者)

寺川 近畿大学准教授、水内 大阪公立大学客員教授、松村 阪南大学教授、
白波瀬 関西学院大学教授、村上 大阪大学教授、垣田 大阪公立大学教授、

(行政関係者)

【事務局 (西成区)】

式地 総合企画課長、宇野 まちづくり推進担当課長、竹内 総合企画課長代理、伊東まちづくり推進
担当課長代理、他 4 名

(地域メンバー)

若林 今宮社会福祉協議会 会長、榊原 NPO 法人まちづくり今宮 理事長、山田 大阪府簡易宿所生
活衛生同業組合 相談役、山田 大阪国際ゲストハウス地域創出委員会 委員長、山田 NPO 法人釜
ヶ崎支援機構 理事長、村井 西成区商店会連盟 会長、山田 NPO 法人サポータティブハウス連絡協
議会 代表理事、荘保 わが町にしなり子育てネット 代表、吉岡氏 (森下 釜ヶ崎キリスト教協友会
共同代表の代理) 水野 日本寄せ場学会 運営委員、ありむら 釜ヶ崎のまち再生フォーラム 渉外担
当、大倉 萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社 代表社員、小林 住まいとくらし SOS おおさか実
行委員会 共同代表、穴沢 福祉支援者の集まり 運営代表

4 議題

- (1) 今年度の検討状況について
- (2) 防災機能の検討について

5 議事要旨

○第 14 回福利・にぎわい検討会議 議事要旨 (案) について

資料 2 第 14 回福利・にぎわい検討会議 議事要旨 (案) について、寺川座長より振り返り。
(委員より意見なし。)

○議題 (1) 今年度の検討状況について

資料 3 今年度の検討状況について、事務局より説明。

・事業者アンケートに対する主な質疑、委員が考えるにぎわい機能案は次のとおり

>ここにしかないような施設を配置するのではないのか。(山田 (純) 委員)

⇒まずは、ここで何ができるかを確認し、そのうえで条件付けしていきたい。(事務局)

>地域に根差した特色あるようなあのことをしていただきたい。(山田 (純) 委員)

>国際性っていう意味では、大阪国際交流センターのような施設や大阪公立大学のサテライトであれば、

大阪市として持ってきやすいのではないか。(ありむら委員)

- >地域としては、この地域の特性、歴史を踏まえた上で、このエリアをどう生かしていくんだ、という意味で、ものすごく前向きに議論してきた。今回のアンケートを行った対象の事業者に対して伝わっているのか疑問が残る。事業者がどう理解して、活用されるのか非常に心配。(吉岡委員)
⇒アンケート時に参考資料として、あいりん総合センターの概要を付している。進出可能性のある事業者に対して、活用ビジョン等を示しながら地域の意見を伝えていきたいと考えている。(事務局)
- >心療内科。(荘保委員)
- >人の流れを作ってくれるようなものが欲しい。特に当該地域は飲食の集客力が貧相。十数店舗で、いろんな種類の店舗を作っていただきたい。(村井委員)
- >物販的なものもいい。地域の方に喜ばれるもの。(大倉委員)
- >大学の分校とか、サテライトが建てばいいなど。福祉科を持つてる大学で。(穴沢委員)
- >医者、内科とか眼科とかのデパートみたいな感じ。その他、食べる場所が必要。また、暗いイメージがあるので、お店の明かりで明るくしていただけたら。(若林委員)
- >依存症の方が多いことと、発達障害や知的障害や精神障害だと思われる方が多い地域。平野区にあるリハビリテーションセンターのような機能や大人の発達障害と向き合えるような施設。例えばソーシャルスキルトレーニング施設。(小林委員)
- >建物の上に大きなイベントができる広場。いろんなものがある上に広いイベントができるようなスタイル。(水野委員)
- >スケボーパークのような子どもの遊び場をちゃんと作ること。(荘保委員)
- >スケボーパーク大賛成。一番対象にしないといけないのは、若者。旅行者じゃなくて、実際に大阪市内区内に住んでいる若者、国籍も限定せずに。(山田(英))
- >AIやVRを活用した集客施設。交通の便がいいから電車に乗る前に預けていけるような保育園。いろいろなあの習い事ができる場所。(山田(尚)委員)
- >映画とか演劇ができるような場所。この界限は宿泊施設が多いので、その演劇祭とすごくマッチするというか、フェスティバル系のことをするのに、すごくマッチする。(小手川)
- >若者が集えるような広場の実例として、東京の渋谷駅の近くに [MIYASHITA-PARK](#) がある。当該施設にどんな成果と課題があって、センター跡地と親和性があるのかも含めて検討したらいい。大学のサテライトについては、南海沿線の大学とか短大とか専門学校とかを中心にリサーチしていけばいいのでは。(白波瀬委員)
- >教育研究に関するようなエリアがあってもいい。みんなが来るインフォメーションセンターのような。海外の旅行客が集まるようなたまり場もほしい。楽しい人だけ来るうエリアはたくさんあるが、ここは、そうじゃない人も一緒に集ったり、出会ったりいられたり過ごせたり、人に気づいてもらったり、いろんな体験ができたりするようなダイナミックに構想してもいい。(垣田委員)
- >外から人を呼び込んであそこに行かせることが一番大事。日本語の専門学校でもいいから、あそこに寄れるような場所を作るっていうのは大事。全国からいろんな人が集まってきてでここから全国に散るし、簡宿に泊まって、通天閣にも遊びに行くやろうし、飛田にも行くっていう。そういう機能(松村委員)
- >旅行者、観光客というところは、メインになるかなど。労働の町、働く町というのが不整合を起こさないように、新しい駅前空間を作る必要がある。(水内委員)
- >福祉行政での拠点が必要。極端に言うと、区役所のサテライト、分室的なもの。措置権限のある職員がいてくれたら一番早い。(吉岡委員)

○議題（２）防災機能の検討について

資料４ 防災機能の検討について、事務局より説明。

- ・防災機能に対する主な質疑、委員が考えるにぎわい機能案は次のとおり

>大阪市は、跡地に建物を作るときに、さまざまな防災施設を埋め込むっていう発想でいるんですよね。

（ありむら委員）

⇒基本的には、周辺の広域避難場所になってるところに既に設置できている認識。それに加えて跡地に本当にいるのかという議論をこれからさせてもらいたい。（事務局）

>交通の要衝であるだけに、帰宅難民が多くなるように考える。周辺のエリアよりもずっと必要な印象。

（ありむら委員）

>防災計画の中でシミュレーションが、かなり精度高く出ていると思う。一度そういうものも見てもいい。（寺川座長）

>水道施設やガスの施設なんかを埋め込んでおくことで、いざという時、それを利用できるので、ぜひそれを実現いただきたい。心配なのは帰宅困難者。[YOLOBASE](#)は防災機能を備えている。公募要件調べてもらえると参考になると考える。（松村委員）

※YOLOBASEは災害時避難場所の指定を受けている。（恵美小学校を廃校する代わり）

>障害を患った、様々な方が安心して避難できるような場所がほしい。（穴沢委員）

⇒大阪市では体が不自由な方も含めて、高齢者、障害者など避難所生活において特別な配慮をする方のための避難所ということで福祉避難所がある。（事務局）

>空いた空間は一時避難場所として人が入ってもらえるような空間にもできるかもしれない。備蓄は、基本的には、いまみや小中一貫校にある。（事務局）

6 会議結果

- ・事業者アンケートに対する主な質疑を受け、委員が考えるにぎわい機能案について、意見交換をおこなった。
- ・跡地に配置する防災機能について意見交換を行った。

7 会議資料

<資料>

資料１ 福利・にぎわい検討会議委員名簿

資料２ 第14回福利・にぎわい検討会議 議事要旨（案）

資料３ 今年度の検討状況について

資料４ 防災機能の検討について